３．学士課程教育の学び

３－１　全学共通科目

全学共通科目は所属学部の専門分野の枠を超えて全学部生が共通に求められる汎用的技能の育成を目的としています。

専門教育への単なる入門教育ではなく、本学学生であれば誰もが共通して経験し、幅広い視野や基礎的な知識を涵養するための学びとして、「課題探究」「情報・数理データサイエンス」「健康・スポーツ科学」「市民性と異文化理解」の４つの科目区分を設定しています。

全学共通科目の卒業要件単位は、「知の探研」（３単位）、「情報処理入門１」（１単位）、「数理・データサイエンスの基礎」（１単位）の必修科目を含む合計１１単位が標準となっています。

「課題探究」

多様な志向を持つ学生同士で協力しながら、課題を見いだし、課題解決に挑む姿勢と能力を獲得することを目的とします。

課題探究として履修する授業科目の**「知の探研」**は、全学生*が必修の科目です。科目名に含まれる「探研」には、高校での"探"究活動から大学における"研"究活動に向けた第一歩となる授業科目であるという意味が込められています。知の探研は、学生各々が行う第１学期のオンライン授業と、学生が集まって行うグループ活動を主とする第２または第３学期**の教室授業から成り、これら合わせて３単位を１年次に取得します。

第１学期のオンライン授業では、教室授業に向けて必要となるスキルや態度などについて学びます。教材は「岡山大学 Moodle」で提供され、動画等の電子教材を用いて学生自身で学びを進めます。オンライン授業は、第２または第３学期における教室授業を履修する前提となる内容ですから、必ず履修を終えることが求められています。入学時から「岡山大学 Moodle」を確認し、計画的に履修を進めるようにしてください。

第２学期または第３学期の教室授業では、グループ活動や個人活動、ミニレクチャーなどを通して、課題設定、調査・分析、発表・報告、振り返り等を経験していきます。学部が混在した１００人のクラスごとに異なるテーマ（「探研テーマ」と呼びます）が設定されます。この１００人のクラスを、専門分野の異なる教員がペアを組んで担当します。ペアとなった２名の教員は、それぞれがもつ専門的な視点から、探研テーマに沿い、かつ、グループ学修に適した題材（「教員テーマ」と呼びます）を提示します。この教員テーマによる活動は、１００人のクラスを二つに分けた５０人の小クラスにおいて実施されます。

「探研テーマ」を掲げる１００人のクラスについては、学生の希望を参考に編成します。第１学期の事前学修を進める中で、あなたがどの「探研テーマ」クラスを希望するかについて調査を行います。Moodle 内の指定された期日までに必ず回答するようにしてください。

注）＊　GDP 学生を除く。GDP において代替科目が英語で開講されます。
　　** 学生番号末尾が偶数の学生は第１学期と第２学期を受講します。
　　学生番号末尾が奇数の学生は第１学期と第３学期を受講します。

「情報・数理データサイエンス」

大学教育における研究や教育をはじめ、社会人として必須である情報リテラシー技術やＩＣＴ（Information & Communication Technology）活用能力を修得します。また、今日、情報通信技術の普及により大量のデータが収集・蓄積されていますが、それらは活用されなければ意味をもつ情報とはなりません。このようなデータを対象とする学問分野がデータサイエンスです。数理データサイエンスでは、データの収集・加工・分析に必要なプログラミングスキルや統計的手法、AI や機械学習の初歩、さらに可視化方法を修得します。

１）情報教育科目

「情報処理入門１（情報機器の操作を含む）」「情報処理入門２（情報機器の操作を含む）」「情報処理入門３（情報機器の操作を含む）」では、情報化社会においてインターネットを有効に活用するための知識、情報セキュリティ被害にあわないためのセキュリティ対応能力、個人情報漏洩防止の

ための知識などの幅広い情報リテラシー能力と正しい情報マナーを身につけることを学びます。

上記の科目は、授業における課題の提供や小テストの実施、事前、事後の学習に授業支援システム"Moodle"を利用します。また、すべて実習を伴い、個人所有のＰＣを使用します。

情報教育科目のうち、**「情報処理入門１（情報機器の操作を含む）」**は全学必修科目です。この授業科目は、あらかじめ学部（学科・課程）によってクラス分けを行って開講します。指定以外のクラスを履修することはできません。

これらの情報教育科目「情報処理入門１（情報機器の操作を含む）」「情報処理入門２（情報機器の操作を含む）」「情報処理入門３（情報機器の操作を含む）」は教育職員免許状取得に必須の科目であり、最低２科目、２単位が必要になります。

また、情報教育科目を発展した、より高度な技術を学習し、インターネットの安全・安心な活用、情報機器の効率的な活用のための知識を修得する科目もあります。

２）数理・データサイエンス科目

数理・データサイエンス科目のうち、「数理・データサイエンスの基礎」は、現代の基礎教養として欠かせない情報学・統計学・数理科学の３つを体系的に学ぶためのものであり、授業では、データサイエンスの基盤となる統計および数理の基礎と、データサイエンスの応用事例を修得し、さらに機械学習の概念を学んで、データサイエンスの果たす役割を概観します。この科目に関連した「数理・ データサイエンスの基礎演習 A」では実際にソフトウェアを利用し基礎で学んだ概念を学びます。また、「データ表現とアルゴリズム」ではデータサイエンスで必要な数理的な知識、アルゴリズムの基礎知識についてソフトウェアを利用しながら学びます。

さらに「統計学の基礎」と「データ分析の基礎」が開講されており統計学の基礎を学びます。また、「数理という道具を手に入れよう」では、数学がどのように有用な道具になりうるかを体験的に学びます。

数理・データサイエンス科目のうち、**「数理・データサイエンスの基礎」**は全学部の必修科目で、あらかじめ学部（学科・課程）によってクラス分けを行って開講します。指定以外のクラスを履修することはできません。

なお、数理・データサイエンス AI 教育プログラム認定制度（リテラシーレベル及び応用基礎レベル）については、41 ﾍﾟｰｼﾞに記載しています。

「健康・スポーツ科学」

生涯にわたる健康づくりとスポーツ実践力の獲得を目的とします。

１）健康・スポーツ科学科目

「健康・スポーツ科学」は抽選があり、第 1～第 4 学期に指定された時限で開講します。本授業は教育職員免許状取得のために必要な科目です。

「健康・スポーツ科学Ｃ」は抽選がなく、通年で月 1 回、水曜日 10、11 限に開講するオムニバス形式の授業です。具体的な開講日はシラバスで確認してください。本授業は教育職員免許状取得に関係しません。

２）スポーツ演習科目

「するスポーツ演習」は、通常時間帯のスポーツ実技に加えて、各自が Moodle を活用した学びから運動プログラムを作成し、通常時間帯以外においても運動を実践する授業です。本授業は教育職員免許状取得のために必要な科目です。

「みるスポーツ演習」は、みるスポーツに関わる調査研究テーマを履修者が設定し、テーマに基づきグループを編成し、調査計画を立案し、実際に調査に出かけ、報告書をまとめます。

注）すべての科目（「健康・スポーツ科学」、「健康・スポーツ科学Ｃ」、「するスポーツ演習」、「みるスポーツ演習」）について、単位を修得できるのは、それぞれの科目につき１人１回までです。

３．学士課程教育の学び

「市民性と異文化理解」

多様な価値観・多様な文化的背景をもつ人々で構成される現代社会のなかで、他者と協働しつつ自己実現を図るために必要な知識と能力を養います。また、世界の多様な文化について知見を広め、自分たちとは異なる文化圏の人々とも、粘り強く対話を重ねながら相互理解を目指す態度を培います。

１）実践知科目

地域社会の企業、行政、NPO、まちづくり等が直面する様々な課題を題材とし、その解決に必要な実践知を養うことを目的とします。市民性と異文化理解の基盤の上に、市民的教養に裏付けられた判断力、リーダーシップ、チームワーク、責任感を身に付けるとともに、実社会の多様な関係者と協働しながら、問題発見・解決に必要な技能や態度、素養を培います。

なお、学外の現場で活動を行う科目では、時間割に設定されていない時間帯（土日祝等）に授業を実施する場合や、学外での正課活動に関する保険への加入を履修要件とする場合があります。また、グループワークを重視する科目では、一定人数の受講登録がない場合、閉講となることがあります。現場で受け入れてくださる関係者やチームのメンバーに迷惑がかからないよう、最後まで責任を持って取り組むことが求められます。

＜科目のタイプ分け＞

実践知科目は、

１）社会連携した実践活動の度合い（それに充当する時間数等）

２）学習環境がグローバルであるか

の２点を基準としてタイプ分けされています。

全授業時間のうち、現場での実践活動の時間の多い科目を「Ａタイプ」、比較的少ない科目を「Ｂタイプ」とします。さらに、学修環境が外国、または国内であっても外国人コミュニティ等での学修を含むなど、異文化体験の深さに応じて、「Ｇ」または「G^+」が付されます。これらの組み合わせにより、以下①～⑦のタイプが設定されており、シラバスの「授業形態欄」に明記されています。各タイプの特性を理解したうえで、履修計画を立ててください。

◆　シラバスの「授業形態欄」には、以下のいずれかが表示されます。

「該当せず」

①Ａタイプ（社会連携の実践活動が授業の 1/3 以上）

②Ｂタイプ（社会連携の実践活動を一部取り入れている）

③G^+Ａタイプ（外国や外国人コミュニティ等で学修するＡタイプ）

④ＧＡタイプ（外国人との討論等、異文化に触れつつ学修するＡタイプ）

⑤G^+Ｂタイプ（外国または外国人コミュニティ等で学修するＢタイプ）

⑥ＧＢタイプ（外国人との討論等、異文化に触れつつ学修するＢタイプ）

⑦Ｃタイプ（実習・演習として実践的だが社会連携を伴わないもの）

表．タイプ分けの基本

判断基準	記号	解　説
社会連携した実践活動の度合い	A	次の３条件を満たすもの。 a)地域や企業等の現場に出向いて活動すること。 b)その活動時間数が、全授業時間数の1/3以上であること。 c)成果報告会を開催すること（学外の関係者が参加し、授業自体の評価をすることが望ましい）。
	B	地域や企業等の現場に出向く、または現場の課題を抱える当事者とのディスカッション等の活動を１回以上含むもの。※単に外部講師が講義するだけの授業は対象としない。
学修環境としてのグローバル要素の付加	G^+	社会連携して学修する現場が外国、または国内の外国人コミュニティであるなど、異文化の環境に深く入って学修する授業。
	G	留学生と日本人学生が協同して学ぶことにより異文化理解を進める授業、海外とのオンライン会議など、多言語で討論が行われる授業等。

２）芸術知科目

優れた芸術作品の能動的な鑑賞やアート創造の現場への参加、さらには実技を通した芸術体験等を含め、創造性と豊かな感性を養います。また、目と耳で感じる表層的な体験にとどまらず、今日まで受け継がれてきた歴史的・文化的背景を理解することも重視します。そこには膨大な時間と英知・哲学が込められています。こうした学びは、現代を読み解き、生きる糧となるだけでなく、文化を次世代へ継承し発展させることにも繋がります。

芸術を通じて、既存の思考パターンや価値観が通用しない現代社会の諸課題に対処する際に拠りどころとなる、一人ひとりの内在的価値基準や倫理観を培うことができます。

３）市民性教育科目

グローバル化の進展とともに急激に変貌する現代社会の具体的実像に触れ、幅広い視野で社会関係をとらえるために必要な知識を養います。また、価値観の多様化した社会のなかで自己実現を図るための知識・能力を培います。市民性教育科目では、現代社会の諸事象を多角的な視点から考察するために必要な政治・経済・文化・思想・宗教等の分野の基本的知識に加えて、社会人としてキャリアを形成していくために必要な知識や能力を身につけることができます。

これらに加えて以下のような科目群も含まれます。

＜キャリア教育＞

学生生活を充実させるとともに、社会人になるうえで必要な知識・能力を修得します。

＜アカデミック・ライティング＞

自分で論理的に思考したことを書くことで表現するコミュニケーション能力を養います。

＜日本国憲法＞

教育職員免許状取得のための科目で、２単位の取得が必要になります（法学部を除く）。

＜補習教育＞

高等学校教育と大学教育の円滑な接続を図る科目群です。高等学校において数学Ⅲ、物理、生物の未履修者及びこれらの科目の習熟度に不安を感じている方を対象に、「初等数学１」「初等数学２」「初等物理学１」「初等物理学２」「初等生物学１」「初等生物学２」の６科目を**補習教育科目**として開講します。これらの科目は卒業要件単位外の授業科目として取り扱うため、ＧＰＡ制・上限制の対象とはなりません。

４）言語文化科目

世界の様々な言語の学習を通じて、自分たちとは異なる文化への興味・関心を育み、文化の多様性への理解を深めるとともに、どのような文化的背景をもつ相手とであっても、コミュニケーションを放棄することなく、協力して物事を成し遂げようとする姿勢を培います。

言語文化科目には、英語以外の外国語（ドイツ語、フランス語、中国語、韓国語等）の学習を通じて「外国語との新たな付き合い方」を学び、世界の多様な文化への理解を深める初修外国語科目、様々な国や地域の文化・社会について学びながら、それぞれの文化圏に特徴的な言語表現・コミュニケーション様式に触れる言語文化入門科目、日本語を母語としない留学生等を対象とした各種日本語科目があります。

・初修外国語科目（ドイツ語・フランス語・中国語・韓国語）

１）　初級

ア．初めて履修する場合は、授業時間表の「履修対象の学部、学科等」欄およびシラバスの指示に基づいて、原則として第１学期から第４学期まで同一クラス、つまり同一科目・担当教員の授業科目（第１学期＝初級１、第２学期＝初級２、第３学期＝初級３、第４学期＝初級４）を履修してください。

なお、１年次生を対象に４月に履修希望調査を行います。第１学期に開講される科目はそれに基づきクラス分けを行いますので、履修を希望する新入生は必ず履修希望調査に参加してください。履修希望調査に参加しないと、履修ができない場合があります。【履修希望調査への参加方法等については動画にてオンデマンド配信】

イ．２年次生以上が「初級」授業の履修を希望する場合には、火曜日又は金曜日に開講される「初級」授業を履修してください。火曜日又は金曜日に開講される科目は事前のクラス分けを行いませんので、直接履修登録をすることができます。

ウ．ドイツ語初級、フランス語初級及び中国語初級では週１回行われる「会話」の授業を、第１学期～第４学期に１科目ずつ開講しています。この授業は基本学習に対する発展的補足学習の意味を持ちますので、それぞれの学期において同じ語種の授業を同時履修する学生、或いは既に履修済みの学生のみが履修可能です。

２）　中級　※同一名科目の繰り返し履修可
１年次生でも、授業担当教員と相談の上、履修することができます。
履修を希望する者は、初回の授業に出席して、担当教員から履修の許可を受けてください。

・言語文化入門科目
言語文化入門科目は抽選科目です。履修希望者は時間割を確認の上、所定の期間内に抽選登録を行ってください。開講科目は次の通りです。

【フランス語圏文化】
「フランス概論（言語と歴史）」
「フランス概論（言語と文化）」

【スペイン語圏文化】
「スペイン語圏の文化と社会（スペイン）」
「スペイン語圏の文化と社会（ラテンアメリカ）」

【ロシア語圏文化】
「演劇から見るロシアの人々（ロシアの社会と演劇）」
「演劇から見るロシアの人々（ロシア演劇を読み解く）」
「物語から見るロシアの人々（ロシアの歴史と物語）」
「物語から見るロシアの人々（ロシアの物語を読み解く）」

【イタリア語圏文化】
「イタリアの社会と言語から日本を考える」
「イタリアの教育と言語から日本を考える」
「イタリアの食文化と言語から日本を考える」
「イタリアの芸術と言語から日本を考える」

・日本語科目
履修について不明な点がある場合は、所属学部の教務学生担当窓口に確認してください。
外国人留学生及び特に必要と認められた学生以外は履修できません。

３－２　英語科目

岡山大学の学士課程で学ぶ英語科目は、英語力の育成はもちろんのこと、大学卒業後も英語学習を継続できるように、自律的に英語を学習する習慣を身につけることを目標にしています。そのために、１・２年次だけでなく、３年次以降も英語を継続して学習できるような設定になっています。また本学の英語教育では、授業外学習や学習環境の充実にも力を入れています。

●英語外部検定試験について

英語力の伸長を測定するため、１年次（４月上旬）に Cambridge English Skills Test General（４技能）を、３年次（時期は別途連絡）に TOEIC L&R テストを実施します。この二つの検定試験を必ず受験してください。特に１年次に受験する Cambridge English Skills Test General のスコアは、必修英語科目のクラス編成に必要です。

●各科目について

１年次第１学期の最初の授業では、「オリエンテーション」を実施する予定です。オリエンテーションでは、本学の英語教育体制についての説明があります。また、学生は自身と英語との今後の関係について考えます。

３．学士課程教育の学び

以下、低年次（１～２年次）と高年次（３年次以降）に学ぶ英語授業に分けて説明します。

１）低年次に履修する必修英語

○１年次に履修する科目：各２単位、合計４単位履修します。

「コミュニケーション英語（S&L）」：日常生活など一般的な内容から SDGs などの時事問題等、幅広い内容に関してのスピーキング力やリスニング力を養成するクラスです。最終的には、英会話やディスカッションに積極的に参加できるようになることを目指します。授業外学習として English Central を活用します。

「コミュニケーション英語（R&W）」：日常生活など一般的な内容から SDGs などの時事問題等、幅広い内容に関してのリーディング力やライティング力を養成するクラスです。最終的には、英文を読みながらその要点を理解できたり、短い英文エッセイを書いたりすることができるようになることを目指します。授業外学習として多読等を行います。

○２年次に履修する科目：各２単位、合計４単位履修します。

「アカデミック英語（プレゼンテーション）」：アカデミックな内容で、ディスカッションやプレゼンテーションを行うクラスです。グループディスカッション等を通して思索を深化させ、最終的には（クラスのレベルに応じて）４分から１０分のプレゼンテーションを行うことを目指します。

「アカデミック英語（ライティング）」：アカデミックな内容で、英文エッセイを書くクラスです。文献やインターネット等を利用して情報を収集し、「イントロダクション・ボディ・コンクルージョン」という形式の整った英文エッセイを作成します。最終的には（クラスのレベルに応じて）５００ワードから１０００ワードの英文エッセイを書くことを目指します。

２）高年次に履修する選択英語

○原則として、３年次以降に希望の科目を選んで１単位履修します。

「高年次英語」：内容は、アカデミックプレゼンテーション、アカデミックライティング、ビジネス英語、オンラインクラス、TOEIC 対策（演習）、TOEIC 対策（解説）、英会話等、多岐に渡ります。原則として自分の学習したい内容のクラスを自由に選択し、履修できますが、学部学科によっては、履修する時期及び時間帯、また授業内容について指定されているところもあります。

３）１年次から４あるいは６年次に履修できる選択英語

「SPAcE 英語」：グローバル人材育成特別コース生のための特別クラスです。取得した単位は、卒業要件単位には含まれませんが、グローバル人材育成特別コースの修了要件になります。

「キャリアパス英語」：留学を目指して TOEFL や IELTS の対策をしたい学生、就職や進学のために TOEIC 対策を希望する学生、また、英語力向上のために英語学習を継続したいと考える学生のための科目です。なお、取得した単位は卒業要件には含まれません。
※同一名科目の繰り返し履修可

英語科目の履修スケジュール（例）

年次・期		科目名
１年次	第１・２学期	コミュニケーション英語（S&L）
	第３・４学期	コミュニケーション英語（R&W）
２年次	第１・２学期	アカデミック英語（プレゼンテーション）
	第３・４学期	アカデミック英語（ライティング）
３年次～６年次	各学部学科の指示に従ってください。	高年次英語

注：３年次以降に「高年次英語」の他に、専門教育科目として、各学部学科の教員による「英語で学ぶ専門科目」を履修します。詳細は、各学部学科で確認してください。

３－３　専門教育科目

１．全学交流科目

教員の所属学部とは異なる学部の学生を対象に開講され、様々な専門領域を志向する学生が混在して履修することを想定した授業内容になっています。学生は他学部の開講科目を履修し、自身の専攻と異なる学問分野に触れることで、自身の志向する専門領域の学びに活かせるような気付きを得るとともに、各学生の専門の枠組みを超えた幅広い知識の「理解と適用」を目指します。自身が所属する学部開講の科目は履修できませんので注意してください（医学部については学科単位で考えますので、医学部医学科生が医学部保健学科の科目を、医学部保健学科生が医学部医学科の科目を履修することは可能です）。なお、全学交流科目の中に次の３つの科目区分を設定しています。全学交流科目全体の卒業要件単位数は４単位で、各科目区分の卒業要件の内訳は学部学科ごとに決められています。履修学生の所属学部の系（社会系、生命系、自然系）によって開講曜日・時限は決められており、全学交流科目の全科目が抽選科目となっています。

「社会系交流科目」

文学部、教育学部、法学部、経済学部が開講する全学交流科目です。

「生命系交流科目」

医学部医学科、医学部保健学科、歯学部、薬学部が開講する全学交流科目です。

「自然系交流科目」

理学部、工学部、農学部、教育学部（理系）が開講する全学交流科目です。

２．専門基礎科目・専門科目

専門基礎科目では、自身の専門を積み上げていく上で土台となる知識や技能など、必須の基礎を学びます。専門科目は学部の専門性に基づいた科目で、それぞれの分野に特化した専門的かつ実務的な知識や技能を身に付けます。

また、学士課程４－６年間を通じた英語教育を実施するため、「英語で学ぶ専門科目」を専門教育科目の中に設けています。

※専門基礎科目・専門科目については、所属学部等の「学生便覧」等で詳細を取り扱います。